

芥明高等学校 平成 2 4 年度学校評価表

1 学校教育目標						
<p>本校の綱領「報恩」「勤労」「創造」を念頭において、“地域に根ざし、夢に挑戦する学校づくり”をスローガンに地域から信頼される教育を実践する。</p> <p>(1) 明るく落ち着いたある学校づくり (生徒指導の充実)</p> <p>(2) 学力の向上を図る (進路指導の充実と学力の向上)</p> <p>(3) 個性を伸ばす (部活動・生徒会・図書活動・学校行事の活性化)</p>						
2 本年度の重点目標						
<p>(1) 基本的な生活習慣の確立と心の教育の充実を図る。</p> <p>(2) 地域との連携を密にして開かれた学校づくりを推進する。</p> <p>(3) わかる授業を基本に学習活動や専門教育の充実を図る。</p> <p>(4) 希望進路の目的達成のために、進路意識の高揚、進路情報提供の充実等を図る。</p> <p>(5) 誇りと自信の育成のために、学校行事・ボランティア活動・部活動等を推進する。</p>						
3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校 経営	学校経営方針	学校の教育目標、スローガン及び育てたい生徒像の周知徹底	教職員・生徒・保護者へ説明し、生徒 95%、保護者 70%以上の認知度を目指す。	職員会議・育友会総会・生徒集会・進路説明会などで説明し、会報及び学校ホームページ等に掲載する。	C	昨年度より認知度は向上したが目標達成はできなかった。今後様々な機会を利用し周知徹底する。
	開かれた学校づくり	ホームページの大幅な更新	ホームページを月 1 回以上の更新をし、情報を発信する。	総務部を中心にホームページの更新を積極的に行う。	C	トピックスの部分の更新は増加した。HP 本体の更新を早急に実施する必要がある。
学力	授業の工夫・改善	公開授業および研究授業の促進	年 3 回の公開授業週間で保護者の参観 5 名以上、職員は自教科、他教科それぞれ 1 時間以上の参観を目指す。研究授業は各教科とも年に 1 回以上実施する。	保護者・他校へ 1 ヶ月前には案内する。時間割には場所・授業内容について説明を加える。参観シートの感想・助言を書いた部分を授業担当者に返し、参観した授業を記入した部分を教務部に提出する。	C	保護者の参観数が各回 1 ~ 2 名にとどまった。自教科を互いに見ることができない教科があった。現在の公開授業や研究授業の取組の効果が薄いという意見が多く、根本からの見直しが必要である。

向上		わかりやすい授業の実施	生徒による授業評価で平均4以上を目指す。校外での研修の機会を利用し、教科から1名以上参加する。	各学期末に担当する全クラスを対象にアンケートを実施。最も評価が低かったクラスについて授業の改善とその後の推移を教務部に提出する。年度末には全職員分をグラフ化し、匿名で公開する。	B	授業担当者全員が授業評価を実施し、8割程度の職員が4以上の評価を受けた。授業以外の印象により評価が偏る恐れはある。時習館プログラムを始めとした校外での研修の機会におおむね参加できた。
進路 指導	適切な進路情報の提供	生徒・保護者・教職員への情報提供の充実	二者面談・三者面談の充実や職員研修などでの情報の提供。	進路相談会・オープンキャンパスの情報を提供し、積極的な参加を促す。 上級学校や会社の情報を担任へ伝え面談の資料にする。	C	二者面談・三者面談及び相談会等への参加は概ね達成できた。 生徒・保護者・職員への進路情報提供ができていない。
	進路指導の充実	進路の早期決定と目的意識の啓発	各学年・学科の連携と継続した進路指導を展開する。進路決定100%を目指す。	2年3学期には受験先を決定出来るようにガイダンス等の時期を設定する。 課外・模試の時期及び受講・受験を促すことにより進学意識を高める。	C	1、2年生に対して早期の目標設定への取組はうまく時期の調整ができた。 進路の決定状況は昨年を下回り、目標を達成できていない。
生徒 指導	高校生活の充実	諸活動の計画と実行	・1年生の部活動加入率100%(4月)・校内清掃ボランティアに年間延べ900人以上参加する。 ・幼・小・中・支援学校 ・地域の方々との交流活動を毎月行う。	・学期2回行われるクラブ DAYSなどの取り組み。 ・校内清掃ボランティア活動やインターンシップ、現場実習、幼稚園や小学校や支援学校との連携授業や行事。 ・天草3Sボランティア活動や体育大会、芥明祭など学校行事の充実。	C	1年生は部活動加入率は78%であった。全体では74%であった。 ボランティア参加者も10回で700名の参加であった。昨年より12%減少。職員の参加者も固定されていた。今後在り方を検討しなければならない。
	基本的な生活習慣と規範意識の定着	生活安全・交通安全面について自覚ある行動の定着	・年間延べ遅刻人数10%減少する。 ・交通違反件数を昨年比、年間10%減らす。また、再犯をさせない。 ・特別指導件数を昨年比10%減らす。	・一斉登校指導や遅刻指導及び下校指導、試験時の校外巡回指導や全校集会時の指導。 ・外部講師による講話 ・違反者の交通法規再学習。 ・自動車学校での学科・実技講習会の実施。	C	今年度は昨年度より遅刻生徒数は3割ほど減少した。 交通違反件数は昨年度と同数の11件であった。今年度の再犯者はいない。特別指導では、延べ48人を指導した。(交通違反者を含む)昨年度より12名増えた。
人権教育の推進	差別やいじめのない学校・学級づくり	生徒の人権感覚を育てているか	学期毎年3回の授業年2回人権標語募集年1回講演会実施。	指導案の作成・検討・改良生徒人権委員から呼びかけ講師発掘と選定の充実。	A	水俣から講演ほか授業内容の改良、人権委員の活動等、当初目標を超えて活動できた。

読書指導	生徒の読書活動の活性化	図書館利用率（図書の貸し出し数）の向上	生徒貸し出し数1人あたり平均6冊（年間）を目指す。	朝読書の定着、出前図書館の実施、図書館便りの発行等各種啓発活動を充実させる。	B	生徒貸し出し冊数は目標に達しなかったが昨年度の数値は超えた。環境整備、朝読書等をさらに充実させる必要がある。
安全教育	事故防止の徹底	校内の安全点検や様々な安全対策	安全点検の徹底。普段からの事故防止。発生したときの対応。	苓明高校危機管理マニュアルに沿った取組及び研修会の実施。	C	安全点検の回数が少なかった。報告を正確に迅速に行う工夫が必要。
行事特別活動	学校行事・生徒会行事・部活動などの充実	体育大会・苓明祭・ウォークマラソン大会・部活動・ボランティア活動などの充実	学校行事等を充実させ生徒が活躍する場を設定し自信の育成を図る。	早めの立案と十分な検討を各部署で行う。生徒との打ち合わせも密とするまた次年度のため十分な反省会を実施。	C	特にボランティアへの職員の参加が少ない。職員が模範となり生徒とともに成長していこうとする姿勢が必要。
連携	保護者や地域などとの連携	保護者や地域などとの連携。適応指導研究協力校との連携	各学期の実施。目標に沿った適切な連携を展開する。育友会と生徒会の意見交換会を実施。	早めの立案と十分な検討を各部署で行う。また十分な反省会を実施。	B	育友会役員を中心に学校と協力して行事を実施できた。また警察など地域に機関との連携も実施できた。本部役員以外の協力を増やしたい。

4 学校関係者評価

（1）評価できるとされた点

- ①進路決定状況（就職）については、昨年よりやや内定率は低かったが、地元への就職が多数内定していることは評価できる。
- ②地域ボランティア清掃活動は、毎月1回実施されており、地元からの評価や感謝の声も多い。
- ③商業科・生活情報科の資格取得（各種検定）で職員が継続的に取り組んでおり、生徒へも伝わっている。3種目以上1級に11名、5種目4名、3冠王2名で、今年度も多くの合格があるというのは職員・生徒の頑張りがあったためであり、これからも生徒の自信づくりをして欲しい。
- ④学校行事に生徒が生き生きと楽しく参加しており、活発で充実している。
- ⑤環境美化については、地域・外部からの評価は高い。これからもきれいな学校を維持して欲しい。掃除についての評価は生徒・職員・保護者の意識のズレがある。生徒は自分自身の評価（反省）をしているようである。
- ⑥苓明高校に入学して良かった、させて良かった評価が高いことは、非常に評価できる。

（2）課題として指摘された点

- ①生徒が農業クラブや部活動・標語等で多数表彰されているが、保護者や地域にあまり知られていない。また、小学校や支援学校との交流授業も行われているが、これも保護者や地域にはあまり知られていない。もっと情報を発信すべきである。HPでも広報活動が更新されていない。HPの活用を考え、目標等の更新を行って欲しい。
- ②交通安全教育は実施されているが、自転車や原付バイクの交通ルールが徹底されていない。事故も発生しており、今後も引き続き指導をお願いしたい。
- ③実習時の安全面には日頃から注意しているが、事故が発生しないように今後、十分に事故対策を検討していかなければならない。
- ④わかりやすい、わからせる授業については、公開授業の他校内研修等も取り入れ、教職員の資質及び指導力向上には計画の見直しも必要である。
- ⑤部活動については教師の評価は低いが生徒が活躍しているのではないかと、今後生徒が入部して頑張れるようにして欲しい。
- ⑥学校評価について、来年度へどのようにつなげるか、具体的な取組をして欲しい。

5 総合評価

- ①体育大会・茶明祭・ウォークマラソン、クラスマッチ等は、生徒にとって楽しく充実した行事となっている。また、自信の育成につながった。
- ②公開授業や研究授業の実施については、計画どおり実施することができたが、教職員の資質及び指導力向上には計画の見直しも必要である。
- ③進路指導は天草管内希望の生徒数に対して求人数が少なかったがキャリアアドバイザーの頑張りでおおむね目標を達成できたが、100%までには至らなかった。
- ④生徒指導については、指導件数は今年度減少したので、教職員全員で取り組んだ指導の効果が出ている。また、中途退学者数も減少した。
- ⑤人権教育については、LHRや講演会を実施したが相手の立場になって行動できる生徒の育成までには至っていない。
- ⑥部活動については加入率は低く、一部の部活動は頑張っているが全体的には、活動内容や大会成績とも満足な結果とは言えない。
- ⑦地域ボランティア清掃活動は7年目を終了したが、年々参加数がやや減少している現状にある。また、福祉施設や保育園・幼稚園等へのボランティア参加数も多く、生徒のボランティア精神の育成につながっている。
- ⑧茶明高校に「入学してよかった、入学させてよかった、勤務してよかった」という割合が高く、生徒・保護者・教職員とも満足度が一番高かった。

6 次年度への課題・改善方策

- ①進路指導の充実を図る。
 - ア 進路決定率100%を目指す。
 - イ 面接及び作文（小論文）指導の体系化と組織化を強化する。
 - ウ 充実した進路情報を生徒、保護者に提供し、早めの進路目標の決定を行う。
 - エ キャリア教育やインターンシップ・オープンキャンパス・進路ガイダンス等の内容を充実したものにする。また、積極的な参加を促す。
- ②教員の資質向上を図る。
授業の工夫・改善、わかる授業・楽しい授業の実施。（研究授業の実施、生徒による授業評価の実施、教科会の充実、教科の研修への参加等）
- ③人としての生き方あり方や公共マナー及びメールやブログなどインターネットの使用に関するルールやマナーの周知、徹底する。また、天草の伝統文化を中心に据えた道徳教育の充実を図る。
- ④保護者や地域に情報を発信する広報活動の工夫・改善に力を入れる。ホームページの充実を図るため学科ごとの担当を決める等の工夫をする。
- ⑤学校行事等への保護者や地域住民の参加増を図る。
現状は体育的な行事や文化祭等への参加は多いが授業参観が少ないので、日時や内容及び広報・案内方法も含め再検討する。
- ⑥入学希望者が減少している状況にあるので、少しでも入学希望者を増やす工夫と努力を行う。ここ数年、特に園芸科学科の希望者が減少しているので、対策を講じる。
- ⑦農場・施設を含めて、施設案内や作目状況並びに作業・実習手順等の案内（紹介、説明）など安全性を目的も含めた掲示教育を充実させる。
- ⑧来年度への課題を把握し、今年度中に職員に提示して改善する。